

5. 普及・広報活動

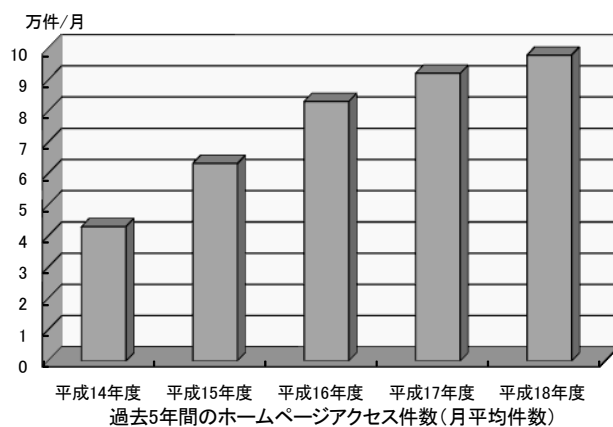
気象研究所では、研究の内容や業務について広く一般の方々の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているものほか、他省庁の主催する行事への協力や筑波研究機関連絡会、つくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

5.1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成7年12月から運用しており、平成15年度には、レイアウトや構成などを全面的に見直した。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からもリンクが張られており、平成18年4月から平成19年3月のアクセス件数は約115万件であった。



ホームページアドレス: <http://www.mri-jma.go.jp>

5.2. 施設公開など

5.2.1. 一般公開、施設見学

一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間*の行事の一環として一般公開を行っている。この一般公開では研究・観測施設公開のほか、ビデオ放映やパネル展示による業務紹介を行っている。

平成18年度は4月19日（水）に一般公開を実施し、139名の来場者があった。

*科学技術週間とは

科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。例年、発明の日（4月18日）を含む週が科学技術週間として設定される。

お天気フェア

気象研究所では、高層気象台、気象測器検定試験センターと共同で、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究・観測施設の公開やビデオ上映のほか、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。さらに、例年天気図講習会として天気図の描き方に関する講習会を行っており、小中学生から好評をいただいている。

また、このお天気フェアは、つくば市主催の研究機関スタンプラリー「つくばちびっ子博士」の対象にもなっている。

平成 18 年度は、8 月 2 日（水）に以下の内容で開催し、1843 名の来場者があった。

天気図講習会（予報研究部）

実験・体験コーナー

- ・ 温度計を作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会計課
- ・ 台風を作ってみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・台風研究部
- ・ 雲の発生装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・環境・応用気象研究部
- ・ 雨粒観察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・環境・応用気象研究部
- ・ 光のいろいろ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・物理気象研究部
- ・ 放射能をみてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・地球化学研究部
- ・ 海の謎を解き明かせ！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・海洋研究部
- ・ 地震の音を聞いてみよう！・マグニチュード体験・・・・・・・・・・・・・地震火山研究部
- ・ ダウンバーストをつくろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・気象衛星・観測システム研究部
- ・ 放球体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ カルマン渦を作ってみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ 紫外線の測定実験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台

ビデオ上映（気象研究所概要ほか）

観測・研究施設見学

- ・ 大型気象風洞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・物理気象研究部
- ・ 低温実験施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・物理気象研究部
- ・ ドップラーレーダー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・気象衛星・観測システム研究部
- ・ 係留気球・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ ラジオゾンデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ 気象測器参考館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・気象測器検定試験センター
- ・ 地震体験車・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（協力）つくば市消防署

施設見学など

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行なわれる校外授業や海外からの来訪者などを対象に、必要に応じて施設見学の対応を行なっている。見学内容は、見学の目的や実験の状況などを勘案し、その都度設定している。

平成 18 年度は 32 件の見学を受け入れた。

5.2.2. 普及・教育制度との連携

サイエンスキャンプ

サイエンスキャンプは、最先端の研究者による講演や研究現場の見学を通じ、次世代の科学技術の担い手である高校生の「科学技術に関する興味・関心を高め、創造的探求心を育てること」を目的にした、(財)日本科学技術振興財団の事業である。

気象研究所では、平成9年度からサイエンスキャンプに協力し、次世代を担う生徒の芽を育んできた。平成18年度は、7月26日から7月28日の3日間、全国から10名の高校生を受け入れ、講義や実験などを行った。

講義内容

- ・ 天気予報の概要 林 修吾
- ・ 地球温暖化を探る 吉村 純
- ・ 地球温暖化すると、海の流れはどう変わるのか? 本井達夫
- ・ 人工衛星から見た雪氷圏の変化 青木輝夫
- ・ 二酸化炭素の変動を調べる 小畑 淳
- ・ CO₂濃度測定室の見学 時枝隆之
- ・ 地震と津波 林 豊
岩切一宏

見学内容

- ・ ドップラーレーダー 気象衛星・観測システム研究部
- ・ スーパーコンピューター 企画室
- ・ 高層観測（ゾンデ放球） 高層気象台
- ・ 観測測器の説明 気象測器検定試験センター

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、文部科学省が「理科大好きプラン」の一環として行なっている取り組みで、気象研究所では平成14年度から協力を行なっている。平成18年度はSSHとして指定を受けている4校を受け入れ、研究官による講義、実験、施設の見学などを行った。

- ・ 8月29日 埼玉県立大宮高等学校
- ・ 9月22日 香川県立三本松高等学校
- ・ 10月12日 石川県立金沢泉丘高等学校
- ・ 12月14日 長崎県立諫早高等学校